

参加者：4 荻野 3 鈴木克 竹田 2 棚谷 森里

※2年に会議中止を伝え忘れた（自分の過失です）せいで2年の二人が学科部屋に来てくれてたので、在室だった人々で五月祭について雑談的なことをした。

以下、時系列は無視。例によって鈴木の主観によって事実の歪曲、書き忘れが多々あるはず。

① 抽象的な話

「earthenv Café」と展示を一緒にやる意味は？そもそも何を目的として五月祭に展示を出すのか？

地学的/人間的時間スケールのギャップを埋める作業 cf. 茅根先生メール

例：石油、鉄鉱床、花崗岩等：ウン万年スケールで生成 ⇔ 消費：数年

→「地学」を知ってもらう→人間生活と地球の橋渡しとしての地学

↑

いろんなことを紹介したほうがよい？←あんまりやりすぎると収集つかない

地震にかんする展示：普通の人も報道によってある程度の知識は得ているはず。

→ある程度むずかしめの内容を扱う（必要がある/ことができる）

よさげなテーマ：地球と人間の橋渡しとしての地学（地球科学）

② 五月祭の目的

去年：班のリーダーによりバラバラ。共通項は「水からみる地球」

荻野さん：3年にいろいろやって面白がってほしい

加藤さん：わかりやすさの追求 etc

・客層：相当広範囲。

本郷高校生がレポートネタを収集しにくる、リピーター、親子連れ、院生、、、

竹田「なんでやるのか決まってるならやらなくてよい」

まとまるためには、裏テーマともいうべき、五月祭への動機づけが必要。

裏テーマ！！

- ・先生との交流
- ・将来の研究発表の練習（特に多種多様な知識量をもつ一般人に対して）
- ・利益を生みたい
- ・一般人へ知識の還元（税金使って勉強してるんだから…）
- ・人材育成、啓蒙、地学への門戸を開く（長期的視点）
- ・3、4年の交流
- など

○竹田が去年の展示でもどかしかったこと

「伝えるのは難しい」

- ・質問への対応（知識量不足）
- ・ポスターのわかりにくさ（誰に対して？）

○鈴木が去年思っていたこと

・知識量に差のある人々に対する、臨機応変な対応。

例：カルデラ生成実験：「カルデラってなんですか？」な人もいるし、「マグマだまり？ああ知ってるよ」もいるし。極端な場合「幼児+夫婦」に対して、全員にそれなりに面白がってもらう必要があった。

③ 具体的な話

- ・今回の地震を取り入れたい
- ・(森里) ロウを使ったマントル対流モデル (大変そう)
- ・ボランティアを兼ねた被災状況の現地調査 by 大谷とか？
- ・地震の before after @GoogleEarth→GIS で解析とかできないか
- ・津波に関して
 - 水槽で再現 (普通の波との違いも出したい)
 - 館山の津波堆積物 (巡検で見に行く?)
- ・去年みたいな立派なパンフは不要な気がする
- ・Café で陶器？を出して、「このカップは〇〇でできていて～～」のようなことは是非したい。

事務的な係について (去年の場合)

マネージャー：取りまとめ役。現在は鈴木克。

会議：代表者会議にでてくれる人。

渉外：先生からお金もらってくる人。

編集：パンフの作成とりまとめ。

会計：会計。

広報：ビラ作り等。

↑別に去年の体制を引き継ぐ必要はない。(by 荻野さん)

④ その他雑談的な事項

荻野「Café に入り浸ってる人がいたら大成功だよね」

森里のこの学科にきたきっかけ

「石→きれいだな→なんで？→結晶構造→…」

棚谷の略歴

「学科に入って

- ・一見変化しないものの長期的変化
- ・動かないものが持つ情報

に興味をもった」

開始：15:15 頃 終了：17:00 頃

次回：3/25 の朝 9:30~

※課外活動が制限されているので、変更の可能性あり。

11:00 から学位記伝達式+祝賀会があるので、それくらいまでに終わるイメージで。

参考 <http://www.eps.s.u-tokyo.ac.jp/jp/students/info/undergrad/ugrad2010-213.html>